



にじのはし幼稚園 園だより



令和 8 年 1 月 号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田 美弥



3学期が始まり、子どもたちの元気な声が戻ってきました。各御家庭で、楽しい年末年始を過ごしたと存じます。「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」などと言われ、3学期はあっという間に過ぎる学期です。各学年の集大成ともなり、就学や進級に向けて日々の遊びや生活が積み重なる日々となりますので、お子さんが休まずに通えるよう、ご家庭でもサポートをお願いいたします。

さて、12月に、にじのはし幼稚園では『にじっこ劇場』を行いました。本番の4日は、どの学級にも体調を崩されたお子さんがいたため、全員での表現が叶いませんでした。でも、ここまで各学級で一緒に楽しんできた表現活動を、欠席された子のご家族にも観てほしいという教師たちの強い思いから、再演する日を設けました。

再演の日、3歳児と4歳児はどちらかというと緊張感が薄まり、のびのびとした元気な表現を観てもらうことができました。そして5歳児は、本番とは別の子が休んだことで、役以外のOHPの操作や効果音など、休んだ子のやっていたことに改めて気づき、代わりに担当した子が凄さを感じていました。また、劇の途中で不測の事態が起き、台詞が出てこない場面がありました。その時、他の子どもたちは、その子にそっと声を掛けたり、じっと待ったりしていました。どれだけ時間がたったのでしょうか。その子が台詞を言ったのです。小さな声でしたが、しっかり皆に伝わり、何事もなかったように劇が再開していきました。『にじいろのちから』という創作劇のタイトルは、仲間を信じて待つことのできる絆のことではないかと感じ、そんな風に育っている子どもたちが誇らしかったし、凄いと思いました。保護者の方が温かく見守ってくださっていたことも、その力につながっていたと感じます。

幼稚園での表現活動は、劇団のように完成された劇を観せることが目的ではなく、劇をつくる過程で経験すること(役になりきって表現する、仲間と気持ちや力を合わせる等)が大切な目的です。にじっこ劇場当日、そして再演日に、その一端を観ていただけたのではないかと思います。保護者の皆様の温かい眼差しは、何よりの応援となります。いつもありがとうございます。

にじのはし幼稚園では、4月の就学・進級を見据えながら、3学期も遊びや生活、様々な行事を通して、一人ひとりを大切に育てまいります。今学期も、本園の教育にご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

幼稚園経営計画 3 幼稚園経営の方針 <一人ひとりのよさを受け止め共に育む保護者>

- ① 子どもの思いや成長に気づき、子育てに喜びを感じる保護者
- ② 生涯発達の鍵となるアタッチメントを築き、安心・安全の基地となって子どもを支える保護者
- ③ 学級や園の子どもたちの成長を、先生や保護者と共に喜び合える保護者
- ④ 幼稚園の教育活動に理解や協力をし、信頼関係を基盤にして園や地域と共に子どもを育む保護者

